



平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年2月8日

上場会社名 株式会社 NEW ART HOLDINGS
 コード番号 7638 URL <http://www.newart-ir.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 白石 幸生

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 松橋 英一

TEL 03-3567-8091

四半期報告書提出予定日 平成31年2月8日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	12,324	17.0	1,508	223.9	1,462	233.6	633	
30年3月期第3四半期	10,532	3.0	465	63.3	438	65.4	40	95.9

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 634百万円 (%) 30年3月期第3四半期 32百万円 (96.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	1.94	
30年3月期第3四半期	0.12	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	14,627	7,191	49.2
30年3月期	13,852	6,654	48.0

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 7,191百万円 30年3月期 6,654百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		0.30	0.30
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)				0.30	0.30

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,800	3.3	1,250	53.5	1,210	66.9	680	621.8	2.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	332,527,514 株	30年3月期	332,527,514 株
期末自己株式数	31年3月期3Q	6,581,800 株	30年3月期	6,581,254 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	325,945,975 株	30年3月期3Q	328,966,264 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想の見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項などについては、[添付資料]P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成30年4月1日～平成30年12月31日）において、当社グループは、中長期における事業規模の拡大及び収益力の向上に向けて、中期経営計画に基づき、国内既存事業の拡大、海外展開の推進、新規事業の育成など様々な取り組みを進めました。

また、平成30年10月に、株式会社NEW ARTから株式会社NEW ART HOLDINGSに商号変更し、ホールディングカンパニーとしての経営基盤を整えてまいりました。

当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、主力のブライダルジュエリー事業が引き続き好調に推移したことにより、売上高は123億24百万円（前年同期比17.0%増）、営業利益は15億8百万円（前年同期比223.9%増）、経常利益は14億62百万円（前年同期比233.6%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、仮想通貨関連事業（IT関連事業）からの撤退に伴い貸倒引当金繰入額3億72百万円を計上したため、6億33百万円（前年同期は40百万円）となりました。

なお、当社は、仮想通貨市場への参入及びIT関連事業への事業領域の拡大を目指して同事業を推進しておりましたが、仮想通貨事業を取り巻く環境は著しく変化し、当初想定していた成果が期待できなくなったため、平成30年12月に、当社が保有する株式会社ニューアート・テクノロジーの全株式を第三者に譲渡し、同事業から撤退しました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間より、従来の報告セグメントである「ジュエリー事業」および「エステ事業」の名称を、「ブライダルジュエリー事業」および「全身美容事業」に変更しております。当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

① ブライダルジュエリー事業

当第3四半期連結累計期間におけるブライダルジュエリー事業の売上高は89億20百万円（前年同期比24.3%増）、セグメント利益は18億52百万円（前年同期比86.6%増）となりました。

ブライダルジュエリー事業につきましては、国内においてテレビCMやWEB広告等の集客強化により来店客数が増加したこと、また海外においても国内同様に順調に推移したことから売上が増加し、その結果、前年同期と比べ大幅な増収増益を達成することができました。

新規の店舗展開につきましては、平成30年11月に、銀座ダイヤモンドシライシららぽーと湘南平塚店を、平成30年12月に、銀座ダイヤモンドシライシ博多マルイ店及びエクセルコ ダイヤモンド博多マルイ店を、平成31年1月に、銀座ダイヤモンドシライシ神戸本店、エクセルコ ダイヤモンド福岡店をオープンしました。海外におきましては、平成31年3月に、台湾で3店舗目となる銀座ダイヤモンドシライシ新光三越台南西門店を台湾台南市にオープンすることを決定しました。平成31年1月末における「銀座ダイヤモンドシライシ」の国内店舗は44店舗、海外店舗は3店舗、「エクセルコ ダイヤモンド」の国内店舗は28店舗、海外店舗は1店舗となりました。

② 全身美容事業

当第3四半期連結累計期間における全身美容事業の売上高は21億41百万円（前年同期比1.7%増）、セグメント利益は88百万円（前年同期はセグメント損失1億51百万円）となりました。

全身美容事業につきましては、売上拡大及び利益率の改善を図るための施策として、顧客層の見直し、商品構成の変更、化粧品事業への取り組み、広告宣伝費の見直し等を実施した結果、黒字化が達成され、前年同期と比べ増収増益となりました。平成31年1月末における国内店舗は25店舗、海外店舗は2店舗となりました。

③ アート事業

当第3四半期連結累計期間におけるアート事業の売上高は9億6百万円（前年同期比4.4%減）、セグメント損失は55百万円（前年同期はセグメント利益23百万円）となりました。

アート事業につきましては、美術品の販売だけでなく、株式会社ニューアート・フィンテックにおいて、アートと金融を組み合わせた新規事業としてアートファンドの立ち上げを計画し、実現に向けた準備を堅実に進めており、新しいビジネス展開にも注力しています。

④ その他事業

当第3四半期連結累計期間におけるその他事業の売上高は3億59百万円（前年同期比17.9%増）、セグメント利益は50百万円（前年同期はセグメント損失1億58百万円）となりました。

その他事業につきましては、スポーツ関連事業の株式会社ニューアート・クレイジーにおいて、ゴルフの一流シャフトブランドである「CRAZY」の認知拡大を図ると同時に新製品開発に力を入れています。また、平成30年12月に、当社が保有するIT関連（仮想通貨関連）事業の株式会社ニューアート・テクノロジーの全株式を売却したことにより、同社は当第3四半期連結会計期間より連結子会社でなくなりました。

(注) 上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高または振替高を調整前の金額で記載しています。

当社グループのセグメント別売上は、以下のとおりであります。

セグメントの名称	販売・サービスの内容など	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日) (千円)	前年同期比 (%)	構成比 (%)
ブライダルジュエリー事業	宝飾品の販売、サービス	8,919,812	24.3	72.3
全身美容事業	エステティックサロンの運営、化粧品等の販売	2,138,947	1.6	17.4
アート事業	美術品等の販売	906,409	△4.4	7.4
その他事業	ゴルフ用品の販売等	359,539	18.1	2.9
合 計		12,324,708	17.0	100.0

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含んでおりません。
 2. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 3. 「ブライダルジュエリー事業」は、ブライダルジュエリー販売、ウェディング送客サービス、ティアラ・レンタルサービスおよびファッションジュエリーの売上となっております。
 4. 「全身美容事業」は、エステ施術サービス、化粧品、栄養食品および美容機器販売の売上となっております。
 5. 「アート事業」は、美術品等の販売の売上となっております。
 6. 「その他事業」は、ゴルフクラブ用カーボンシャフト、ゴルフ用品の販売等による売上となっております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末比7億64百万円増加(前期比7.9%増)し、105億円となりました。主な要因としては、現金及び預金の増加3億64百万円、受取手形及び売掛金の増加3億50百万円、商品及び製品の増加1億22百万円などによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末比10百万円増加(同0.3%増)し、41億26百万円となりました。主な要因としては、建物及び構築物(純額)の増加1億63百万円、建設仮勘定の減少1億14百万円などによるものであります。この結果、総資産は前連結会計年度末比7億75百万円増加(同5.6%増)し、146億27百万円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末比4億89百万円増加(前期比8.2%増)し、64億52百万円となりました。主な要因としては、前受金の増加4億79百万円などによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末比2億51百万円減少(同20.4%減)し、9億83百万円となりました。主な要因としては、長期借入金の減少3億54百万円などによるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末比2億38百万円増加(同3.3%増)し、74億36百万円となりました。

(純資産の部)

純資産は、前連結会計年度末比5億36百万円増加(前期比8.1%増)し、71億91百万円となりました。主な要因としては、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加6億33百万円、配当金の支払による利益剰余金の減少97百万円などによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は49.2%(前連結会計年度末は48.0%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期連結累計期間における当社グループの業績におきましては、ブライダルジュエリー事業が好調に推移しているため、営業利益及び経常利益は、平成30年6月8日公表の平成31年3月期通期連結業績予想値を超過いたしました。第4四半期におきましても、引き続きブライダルジュエリー事業が好調に推移する見込みですが、平成31年3月期の通期連結業績予想につきましては、不確定な要素もあるため、現時点におきましては、平成30年6月8日公表の業績予想から変更はありません。なお今後、業績予想について変更がある場合は速やかに公表いたします。

なお、業績予想につきましては、当社が現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、実際の業績は業況の変化や予期せぬ事象の発生などによって、大きく異なる結果となる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,282,476	1,646,900
受取手形及び売掛金	1,557,414	1,907,468
商品及び製品	6,543,571	6,666,400
仕掛品	64,743	80,693
原材料及び貯蔵品	137,109	135,635
前払費用	145,182	138,052
その他	227,948	153,667
貸倒引当金	△222,557	△228,014
流動資産合計	9,735,888	10,500,804
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	985,616	1,148,677
機械及び装置（純額）	7,426	6,233
車両運搬具（純額）	0	7,141
工具、器具及び備品（純額）	870,023	837,458
リース資産（純額）	111,436	100,586
建設仮勘定	115,325	1,100
有形固定資産合計	2,089,828	2,101,197
無形固定資産		
のれん	376,894	355,186
その他	89,215	70,491
無形固定資産合計	466,109	425,678
投資その他の資産		
投資有価証券	48,674	48,674
敷金及び保証金	1,117,287	1,091,611
繰延税金資産	58,465	126,368
その他	414,891	784,545
貸倒引当金	△79,057	△451,547
投資その他の資産合計	1,560,261	1,599,651
固定資産合計	4,116,200	4,126,527
資産合計	13,852,088	14,627,332

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	230,000	228,681
短期借入金	2,828,799	2,716,000
1年内返済予定の長期借入金	584,780	764,834
リース債務	23,233	24,353
未払金及び未払費用	739,592	737,641
未払法人税等	437,796	387,606
前受金	887,598	1,367,567
その他	230,986	225,978
流動負債合計	5,962,786	6,452,663
固定負債		
長期借入金	881,063	526,456
リース債務	86,215	71,422
退職給付に係る負債	185,906	195,459
その他	81,475	190,025
固定負債合計	1,234,660	983,363
負債合計	7,197,447	7,436,026
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,617,252	2,617,252
資本剰余金	2,376,153	2,376,153
利益剰余金	1,853,954	2,389,699
自己株式	△202,098	△202,113
株主資本合計	6,645,262	7,180,991
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	9,278	10,313
その他の包括利益累計額合計	9,278	10,313
非支配株主持分	100	—
純資産合計	6,654,641	7,191,305
負債純資産合計	13,852,088	14,627,332

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	10,532,603	12,324,708
売上原価	4,213,482	4,679,352
売上総利益	6,319,121	7,645,355
販売費及び一般管理費	5,853,299	6,136,375
営業利益	465,821	1,508,980
営業外収益		
受取利息	423	456
為替差益	3,271	—
その他	1,971	2,086
営業外収益合計	5,666	2,542
営業外費用		
支払利息	27,957	27,936
為替差損	—	20,582
その他	5,063	453
営業外費用合計	33,020	48,972
経常利益	438,467	1,462,550
特別利益		
子会社株式売却益	—	136,419
特別利益合計	—	136,419
特別損失		
貸倒引当金繰入額	—	372,921
その他	7,595	27,979
特別損失合計	7,595	400,901
税金等調整前四半期純利益	430,872	1,198,068
法人税、住民税及び事業税	322,669	632,445
法人税等調整額	67,270	△67,903
法人税等合計	389,939	564,542
四半期純利益	40,932	633,525
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	40,932	633,525

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
四半期純利益	40,932	633,525
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△8,216	1,035
その他の包括利益合計	△8,216	1,035
四半期包括利益	32,715	634,561
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	32,715	634,561
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ブライダル ジュエリー 事業	全身美容事 業	アート事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,174,259	2,106,208	947,818	304,316	10,532,603	—	10,532,603
セグメント間の内部売 上高又は振替高	345	—	—	946	1,292	△1,292	—
計	7,174,605	2,106,208	947,818	305,262	10,533,895	△1,292	10,532,603
セグメント利益又は損 失(△)	992,670	△151,296	23,499	△158,139	706,734	△240,912	465,821

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額240,912千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ブライダルジュエリー事業」において、移転が決定した店舗資産に係る減損損失を3,645千円、「全身美容事業」において閉店した店舗資産に係る減損損失を3,949千円計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては7,595千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結会計期間より、「その他事業」において、株式会社ニューアート・クレイジーを重要性が増したため連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は39,771千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ブライダル ジュエリー 事業	全身美容事 業	アート事業	その他事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	8,919,812	2,138,947	906,409	359,539	12,324,708	—	12,324,708
セグメント間の内部売 上高又は振替高	1,001	2,070	—	233	3,305	△3,305	—
計	8,920,813	2,141,017	906,409	359,772	12,328,013	△3,305	12,324,708
セグメント利益又は損 失(△)	1,852,307	88,279	△55,345	50,795	1,936,037	△427,057	1,508,980

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額427,057千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、「ジュエリー事業」および「エステ事業」のセグメントの名称を、「ブライダルジュエリー事業」および「全身美容事業」に変更しております。これは、当社グループが行う事業を投資家の皆様により適切に表現するため当該セグメントの名称を変更するものであります。

なお、当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの名称に基づき作成したものを開示しております。

また、当社は、平成29年10月1日に持株会社制へ移行し、前第1四半期連結累計期間より、グループ会社の管理体制を見直し、経営管理方針を変更しました。これに伴い、前第3四半期連結会計期間より、従来「ブライダルジュエリー事業」に含めていたグループ運営に関連する費用をセグメント利益又は損失の調整額に全社費用として計上しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報における当社のグループ管理費用等のうち前第2四半期連結累計期間のグループ管理費用等については、持株会社体制への移行前であり、算出等が実務上困難であるため、「ブライダルジュエリー事業」に含めております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ブライダルジュエリー事業」において、移転が決定した店舗資産に係る減損損失を5,600千円、「全身美容事業」において、統合による移転が決定した店舗の原状回復費用に係る減損損失を11,060千円、「その他事業」において、閉店が決定した店舗の原状回復費用に係る減損損失を2,678千円計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては19,338千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。